

里の大地

NO. 4

文責 酒井



プールでは、毎日歓声が響き、連日の暑さにも負けず、元気に学校生活を過ごしている子どもたちです。長野県からの依頼もあって、中国の湖北省武漢市の光谷第一小学校の子どもたちとの交流があったり、春予定していた東小学校6年生によるおもてなし隊を杏の収穫期に実施したりしました。また、今週は、読書週間もありました。交流やおもてなし隊の様子を紹介します。

中国の子どもたちと仲良くなりました



武漢市

6月22日(金)に中国湖北省武漢市光谷第一小学校から36名の子どもたちが東小学校を訪問し、交流をしました。まず全校で、歓迎



歓迎の言葉

の式を行い、児童会長からの歓迎の言葉を伝えたり、中国の子ども代表から挨拶があったりし、通訳の方によってそれぞれに歓迎の気持ちや日本の文化に触れていきたい思いを伝え合いました。



記念品交換

また児童会副会長からお土産として、諏訪でつくられたオルゴールを渡し、光谷第一小学校からは、オリンピックの時のマスコットキャラクター「福娃(フーアー)」のメインキャラクターである聖火をモチーフにした福娃歡歡(ファンファン)の切り絵を額に納めたものをプレゼントしていただきました。武漢市は人口は1089.29万人で中国の中でも中核的な都市の一つで経済・財



寄贈された切り絵

政と法制の面で省と同程度の自主権を認められる副省級城市(城市は都市の意味)なのだそうです。光谷第一小学校の校長先生のお話では、光の速さで発展しているとのこと、全校は東西の校舎を合わせると5,000人もの大規模校ということでした。



歓迎の式の後には、主に4年生と交流をしました。運動会のダンス『信濃の国』を披露し、大縄をして少し体をほぐしながら緊張を和らげてもらいました。その後は、クラスに分かれて、剣玉と折り紙をしてぐっと距離が縮まり、活動を通して仲良くなっていく子どもたちの世界がありました。給食を食べ、まとめの会で



は、日本の遊びなどを体験できてよかったとの感想が出され、別れには仲良くなれた子どもたち同士が別れを惜しんで中々離れがたい姿もありました。一緒に活動することで、言葉はすぐには通じなくても、心が通じ合うすてきな姿を見ることができ、たくさんの笑顔があふれたすばらしい交流ができました。

おもてなし隊が活躍しました

6月25日（月）に6年生のおもてなし隊が大活躍しました。花の時期が早く、予定していた日が天候も悪かったために春休みから準備していた『おもてなし隊』が花の時期にできずにいました。屋代南高校の生徒さんが、5月に摘果をした杏を収穫する日に合わせてやっつてはどうかとあんず祭り振興会の方々からご提案をいただき今回のおもてなし隊ができることになりました。



高校生だけでなく、一般のあんずを買いに来られた方もおられ、パンフレットや缶バッジ学校の花壇で咲いていた花のしおりなど手作りしたものをお渡しして大変喜ばれていました。

また、松代藩にお興入れされたおりに杏の苗を愛媛からもってきてくださったといわれている豊姫のお話を読み聞かせしたり、聞いてくださっている方たちにお茶をふるまったりするおもてなしに感動され、しばらくお話をしていられる方たちもいました。



初めはどのタイミングでかかわろうか、緊張した表情だった子どもたちでしたが、パンフレットを受け取った方から、声をかけていただいたり、「ありがとう」の声を聞くことができ、段々に笑顔で接することができた子どもたちでした。

関わった方に喜んでいただけることが自分の喜びになっていくすてきな体験ができたと思います。段々と自信になって、初めての方にとどんかかわっていく積極的な姿が見られ、コミュニケーション力をずいぶんつけたと思います。日差しが熱い中でしたが、一生懸命な子どもたちに、高校生も観光客の方も笑顔で帰って行かれました。

きっとこの体験を活かしながらまた学校生活でも積極的な姿が見られると思います。

